志學館大学長期履修制度要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、志學館大学学則（以下「学則」という。）第28条の2第2項及び志學館大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第24条第2項の規定に基づき、長期履修に関し必要な事項を定める。

(長期履修学生の数)

第2条 長期履修学生数は若干名とし、長期履修の許可及び長期履修中止並びに修業年限変更の許可にあたっては、収容定員上の制約に配慮するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学則第61条に定める外国人留学生は長期履修を申請することはできない。

(長期履修の申請手続)

第3条 長期履修学生を希望する者は、入学者選抜試験の前の適当な時期に大学へ出校し、予備面談を行った上、「長期履修申請書」を提出しなければならない。

2 前項の規定は、再入学者、編入学者、転入学者（以下「再入学者等」という。）にも適用する。

(修業年限)

第4条 長期履修学生の修業年限は、学則第4条及び大学院学則第6条に定める修業年限（以下「通常の修業年限」という。）を超え、かつ、通常の修業年限の2倍を超えない1年単位の年限とする。

(再入学者等が長期履修する場合の修業年限)

第5条 前条の規定にかかわらず、再入学者等の修業年限は、通常の修業年限を超え、通常の修業年限から学則第45条又は大学院学則第34条第3項に基づき認定された入学前の在学期間を減じた年限を通常の修業年限に加えた年限を超えない1年単位の年限とする。

(最長在学期間)

第6条 長期履修学生の最長在学期間は、前2条のいずれかに基づき認められた修業年限のうち通常の修業年限を超える年数を学則第4条又は大学院学則第6条に定める最長在学期間に加えた期間とする。

(長期履修の許可)

第7条 長期履修の許可は、教授会又は研究科委員会の議を経て、学長がこれを行う。

(履修計画指導)

第8条 長期履修学生には、入学後に、当該学生が所属する学部の教務委員会（大学院にあつては研究科委員会）が履修計画その他の指導を行うものとする。

(履修登録単位の上限)

第9条 長期履修学生が1年間に履修できる単位数の上限は、卒業又は修了要件に算入される授業科目について30単位（大学院学生にあつては16単位）とする。ただし、1学期間に16単位（大学院学生にあつては8単位）を超えることはできない。

(学 費)

第10条 長期履修学生が1年間に納入する学費は、学則第51条及び大学院学則第43条に定める授業料並びに教育充実費の4年間（大学院にあつては2年間）に納入すべき総額を、修業

年限に応じて、その年数で除した額とする。ただし、学則第52条又は大学院学則第43条に定める入学金は、入学の際に納入しなければならない。

(入学後の長期履修申請)

第11条 第3条第1項の規定にかかわらず、この規程は、入学後に長期履修を希望する者についても準用する。

(第2年次修了証書)

第12条 学士課程の長期履修学生として本学に2年を超えて在学し、卒業に必要な通常の4年間に納入すべき学費の総額の半額以上を既に納入している者が退学した場合には、学則第39条第2項に定める第2年次修了証書を授与することができる。

(雑則)

第13条 この要項の実施に関し必要な事項は、別に細則に定める。

附則

この規程は、平成16年7月28日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

- 1 この要項は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この要項制定以前にあった「志學館大学長期履修学生に関する規程」は、廃止する。
- 3 平成30年3月31日に在籍する長期履修学生については、なお従前の例による。

附則

この規程は、令和4年2月9日から施行する。